

最近の相談事例（管理部門業務）

中川 智明

弊社業務の中で、最近、特にご依頼の多い管理部門構築業務をご紹介します。少し専門的になりますので、わかりやすいように「①相談増加の背景」「②管理部門改善構築業務」「③成果」の順に説明したいと思います。

＜①相談増加の背景＞

インドネシア進出ブームから5年以上経ち、進出した日系企業の業績に格差が生じています。業績に関係なく、多くの進出日系企業において、進出時からこれまで管理部門の構築という業務を先送りしてきましたが、もう、それも限界という状況になっています。

管理部門の未構築により、多くの企業が会計帳簿を適切に作成できず、売掛金などの管理回収ができなくなり、従業員の不正が発生しているような実態があります。このような事態において、まずは社内に対応しようとされるのですが、組織をゼロから構築した経験がないことが多いため、ある程度やってみても上手くいかずに弊社へご相談があるという状況です。

会社設立時点で適切な管理体制を構築できていれば、「会計帳簿を何年分も再作成しないといけない」、「売掛金の回収漏れが多額に累積してしまう」、「従業員不正が看過できない状況になる」などの酷い状態になることなく、また、改善のための費用もかからずに済みます。進出すること自体に重きが置かれ、どうしても事前に体制を整えておくというよりは、事が起こってから対応するというようになってしまうようです。



【ジャカルタ名物の渋滞】

＜②管理部門改善構築業務＞

改善構築業務は、クライアントが遠隔地である事が多く、かつ、経費もあまり高額にならないように、1月に1回、数日泊まり込みで業務提供し、それを何か月か繰り返すような形が多いです。会社の組織を構築するためにやるべきことは多く、会社によって状態は異なりますので絶対のパターンは無いところが非常に難しいといえます。



【弊社の隣のビルに進出した日系企業】

＜③成果＞

管理部門を適切に構築できると、前述した問題が生じないばかりか、従業員が前向きに仕事をできるようになり、組織に活力が沸き緊張感が出てきます。そうすると、生産性の向上などにも好影響があると思います。

＜最後に＞

インドネシアへの進出当初は、様々なコストがかかることは明らかですし、「お金や時間がかかることは利益が出てから」という経営者の心情は理解できます。しかし、管理体制をきちんと構築しないで日々を過ごすことのダメージは絶大で、上記のコンサルティング業務にも多額の費用と時間が必要になってしまいます。是非とも、これから進出する会社は投資計画にこのような費用と時間をきちんと入れていただき、進出済みの会社には、すぐにでも対応していただければと思います。